
鳥籠のセイレーン

雪兎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

鳥籠のセイレーン

【Nコード】

N2755BA

【作者名】

雪兎

【あらすじ】

ふと、歌いたくなくなった、ただそれだけだったのにどうして貴方と会ってしまったの……

月夜（前書き）

ふと思いついたから書いてみました。
続きません

月夜

月夜に響く淡い歌声

なんて綺麗なんだろう

君は誰？

そつと近づこうとしたら

「誰?!」

驚かせたみたいだ。

「すみません、驚かせるつもりはなかったんです……ただ、あ

なたの歌が消えそうで、でも綺麗だったからつい……」

クス

少女は笑う

少女は喋らなかつた

変わりにまた歌い始めた

「いつものここで歌ってるんですか？」

「明日も来るんですか？」

「君は歌だけではなく綺麗ですね。」

少女が答えないと知っても青年は一人で言い続ける。

しばらく経つと周りが段々騒がしくなってきた。

「おっと、迎えが来たみたいです、素敵な歌声ありがとうございました。」

また聞ける事を楽しみにしてますね。」

にっこりと言い放ち青年は去った。

青年が去ってしばらくしてから

「何で来るの……何で……何で……何でなの……」

少女は呟く。

「ミナト様……」

悲しそうに少女は青年の名前を言い、家に帰って行った。

「ミナト、お前一体何してたんだよ。仮にも一国の王子ともあるつ
ものが……」

ため息をつく側近の青年。

「五月蠅い。」

不機嫌そうにこたえるミナト。

ミナトこと、ミナト〓オブザエル〓サハリ オブザエル国第一王子
だ。

そしてその側近、トウヤと城へ帰る途中に

「トウヤ、セイレーンを探し出せ。」

唐突に言うミナト。

「っは？セイレーンってあの？」

「いや、歌の綺麗なあの子にピツタリの名だ。」

トウヤの言葉を聞かず、一人で納得するミナト。

「フフ、逃がさないよ俺のセイレーン。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2755ba/>

鳥籠のセイレーン

2012年1月7日00時51分発行